

ゆいちゃん は シリタガリーノ!! 仏さまはまぶしい! 星木レイ



浄土宗こどもタイムズ

第34号

発行
浄土宗児童教化連盟

発行人
辻本 良明
〒857-0851
佐世保市稲荷町19番
10号 善隣寺内
TEL 0956-33-3334
FAX 0956-33-3338

なむなむ おじちゃん



「食べ物のおもいで」

「渡辺篤史さん(俳優)の少年時代の話」

「冬のある日。親子喧嘩の末の

家出、夜を明かし、自転車で町を

ウロウロしていた。昼時、揚げ物

の匂いに誘われて店の中へ。百五

十円のトンカツ定食を息もつかず

に食べた。あんな旨いトンカツに

その後出会っていない。さて支払

いの段になってポケットをまさぐ

る。すると、百五十円に、二十円

足りない。茫然としてみると、オ

ヤジが声をかけてくれた。『今日は、

オジサンのおごりだよ、又おいで

……。私は無言で、礼も言わず

に店を出た。うれしかった。一目

散で家に帰った。涙が耳を濡らし

た。オヤジの一言が少年を救った。』

(平成十五年十月十三日付読売新聞)

不安と葛藤と空腹の中で、少年は

初めて入った店のオヤジから、やさ

しさとは何かを教わる。満腹感と共

にその感激はより深く刻まれたに違いない。

さて、私の子供の頃の思い出とい

えば、「りんご」、それも母がすすて

くれた「りんご」である。私が子供

の頃は、母は大変忙しく、ゆつくり

子供の相手をしてくれるような時間

はなかった。しかし、病気で寝込ん

でいるときは別である。その時の母

は、特別に優しくなった。寝ている私

の顔を覗き込み、熱を測り、おかゆ

を食べさせ、そしてその後には必ず、

すった「りんご」を匙で食べさせて

くれるのである。熱っぽい体に少し

冷えたりんごは甘くておいしくて、

幸せを実感するのに十分なものであ

った。今から考えると、母に甘えた

い私が、りんごを通して母の愛情を

実感していたのだと思う。

「おふくろの味」というが、食べ

物と共に刻まれた思い出は、思い出

す度に、人生の支えとなるようであ

る。

お寺にあるある③ 『四天王』

四天王様は、仏様を守っている仏教の守護神です。

本堂では、中心におられる仏様を守りしています。悪魔が入ってこれないよう、に境界をはるため、四隅におかれています。東南と西南と北西と東北に分れて、四方からしっかり守っています。四天王様は、いつでも悪魔と戦えるように、体によろいを付けている、とても勇ましい武将の姿をしています。

東方には、持国天様、南方には、増長天様、西方には、広目天様、北方には、多聞天様が四隅を守っておられます。多聞天様は、別の名前を毘沙門天ともいいます。

持国天様は、かぶとをかぶり、手には刀を持っています。目をかっと開いて、

口はぎゅっとへの字に結んでいます。増長天様は、右手にほこ（やりのような長い柄の付いた刀）を持ち、大きく口を開け、大声でしゃかりつけています。悪魔をやぶる力強い姿をしています。

一方、広目天様は、筆とお経を持ち、多聞天様は、仏塔とお経を持っています。お顔は怒りを表に出さず、静かですが、細くあけられた目で、どんな人の心の中も見通してしまふ、するどい目をしていきます。

足の下を見ると、邪鬼がふみつけられています。鬼をふみつけ、悪魔をこうさんさせています。また、人々を見て回り、人がよい行いをしているか、悪い行いをしていないか調べて、帝釈天王様に、報告するといわれています。

みんなも、四天王様のような悪い心に負けない強い心を持とう！
お寺に行ったら、お一人お一人のお姿の違いを見てみようね！



増長天

多聞天

持国天

広目天

シツタカおじさんの

『漢字・かんじ・カンジ』

「長い読みの漢字」

やあみんな、シツタカおじさんだよ。寒いけど風邪を引かずに元気ですか。

一つの漢字を読み仮名は、短いもので「目」や「手」など1文字のもの、

「顔」「家」のように2文字のものがあ

ります。ちょっと長いもので「志」や

「承る」など5文字のフリガナが当て

られます。また「糧」は「センチメー

トル」(7文字)と読みます。

でも、とても大きな辞典を見てみると、もっともっと長い訓読みの漢字

があります。

例えば「鎖」は「あごがしゃくれる」と読み、8文字です。

「綱」は「むらさきあおのひも」で9文字。

「覇」は「つきのくらいぶぶん」と読み9文字です。

「狎」は「あしのみじかいぬ」で9文字。

「懼」は「あしのみじかいぬ」で9文字。
「颯」は「おおかぜがおこるさま」(10文字)
「𩇑」で「きよろきよろみまわす」(10



文字)

「嘘」は「ことばがただしくない」(10文字)

「𩇑」は「ひとみがただしくない」(10文字)

「𩇑」は「あるきかたがただしくない」(12文字)

「𩇑」は「いしをふんでみずをわたる」と読みます。12文字です。

「𩇑」は「いしのごろごろしているさま」で13文字。

「𩇑」は「たまについてうつくしいし」(13文字)

「𩇑」は「まつりのそなえもののかざり」(13文字)

「𩇑」は「あしをぶらぶらさせてこしける」で15文字。

「𩇑」は「まつすぐにてんくうたかくとびあがる」で17文字。

それで、うそか本当かわかりませんが、「𩇑」は「ものかげからきゆうにとびだしてひとをおどろかせるときにはつるこえ」と読ませるそうです。

これは33文字あります。読み仮名というよりこれはもう文章ですね。



質問

お寺にはどうして
大きな鐘やたいこ
があるの？

答え

今は、どのうちにも時計があるけれど、昔、まだ時計なんかなかったころは、線香をもやして、そのもえた長さで時間をはかったりしたんです。そして、みんなに時刻を知らせるために、お寺では鐘をついたんですよ。お寺の鐘は大きいでしょう。鐘の音は遠くまで聞こえますから、その音を聞いて、村の人は朝起きたり、畑に出かけたり、お昼を食ったり、しごとを終わったり、寝どこにはいったりしたんですね。お寺で生活している人ももちろん、鐘の合図で時刻を知りますが、お寺の生活では、一日のうちにいろんな行事がありますから、そのはじまりを知らせるために、たいこをたたくのです。鐘やたいこのほかに、お寺には音で合図をするものが、いろいろとあります。どうしてかという、お寺ではできるだけ、むだなことをしやべらないで、ここを集中して修行できるようにするためなんです。たいこは、行事のはじまりの合図だけでなく、お経をよむときにもたたくことがあります。

質問

お寺のご門は山門とい
って、山の字が上につ
きますが、私のうちの
お寺には山がありません。
なぜ山がないのに
山門というのですか？

答え

お寺には山号といって〇〇山という別の呼び名をもっています。たとえば、総本山知恩院の山号は華頂山といい、大本山増上寺の山号は三縁山といいます。お寺は必ずしも山がなくても、伝統的な形として山号という別の呼び名をもっていて、その入口のご門を山門といいます。古いお寺は本物の山の中にあることがよくみられ、山全体にたくさんのお堂がある、山全体が寺域となっており、総称として山号があるのでしょう。たとえば天台宗の比叡山延暦寺のようなんです。



質問

お坊さんの事を住職さ
んと呼んだり、方丈さ
んと呼んだりします。
本当はなんとお呼びし
たらいいのですか？

答え

坊・坊というのはお寺の中の僧侶たちの住んでいる建物を指します。そのお寺に何人かお弟子さんがいれば一番偉いお師匠さんの地位を住職といいます。ですから、住職さんはそのお寺に一人しかいません。お坊さんといったら、坊の中にいる大勢の僧侶を指しますが、住職さんという場合は、正式には地位の違いがあるので注意しましょう。昔のお寺の建物の中に方丈の間というのがあり、お坊さんが一人で勉強したり座禅をしたりする四角い小さい部屋をさします。その中の僧侶をAさんと名前を呼ぶのはおそれおおいので、その中に入る方を方丈さんと呼ぶようになりました。方丈さんも、地位を気にしなくても使える呼び名です。

これも仏教の言葉だよ!

くしゃみ



すっかり寒くなりましたね。ブルブルっときて思わず「くしゃみ」なんて。

この「くしゃみ」という言葉は、「くさめ」という言葉からきているようです。昔の日本では、くしゃみをする鼻から魂が抜け寿命が縮まると信じられていました。そうならないように「くさめ」という言葉を唱えたことが変化したようです。

お釈迦様の時代にも同じような考えがあったようです。

あるときお釈迦様がくしゃみをしました。するとその場にいたお弟子様たちが「クサンメ」と唱えてお釈迦様の健康を祈ったというお話があります。

「クサンメ」とはインドの言葉で「長寿」という意味です。昔のインドでも、くしゃみをする寿命が縮まるといって、「クサンメ」と唱える風習があったようです。この言葉が中国を経て日本に渡り、「くしゃみ」になったのかもしれないね。

たとえ言葉や時代が違ってても、相手を思いやる心は同じですね。みなさんのお父さん・お母さんやお友達が「くしゃみ」をしてしまったら、「大丈夫?」と優しく声をかけてあげてください。

ちがいがし

みんなよう
考えよう



左の絵と右の絵のちがつところを5つ見つけてください。ハガキに答えを書いて左記まで送ってください。正解者の中から抽選で30名に記念品をお送りします。記事の感想や意見もいっしょに書いてください。しめきりは3月15日です。

送り先

〒857-0851

佐世保市稲荷町19番10号

善隣寺内

浄土宗児童教化連盟事務局

TEL

0956-333334

FAX

0956-333338

前回の答え

1. もみじの葉→いちょうの葉
2. 烏(カラス) 3羽→4羽
3. 左の雲のかたち
4. うさぎさんのマフラーの色
5. うさぎさんのうしろの山の高さ

お知らせ

◆みなさんからの記事お待ちしています。学校でのこと、家の中でのこと、家族のこと、友だちのことなどを書いて送ってください。またみなさんからの作品もお待ちしています。絵や作文、お習字など何でもけっこうです。

◆送り先は

〒857-0851

佐世保市稲荷町19番10号 善隣寺内 浄土宗児童教化連盟事務局
感想もいっしょに書いてください。TEL 0956-333334 FAX 0956-333338

ぶくぶく編集室



皆さんはこんな出来事があったことを知っていますか。ある大学の購買部の女性の職員さんが毎日二十個のプリンを注文していましたが、けれどもある日、入力ミスで四〇〇〇個注文してしまい大量のプリンが届きました。そこで職員さんは、近くの大に協力をお願いし多くのプリンを引き取ってもらいましたが、それでも多くのプリンが残っています。とてもこんなに多くは売れません。困っている職員さんにある学生が、山積みの中にある写真を撮ってツイッター(短文投稿サイト)に投稿して各大学の学生に買ってもらうようお願いしたところ、その日のうちに全部売り切れたそうです。心やさしいみんなの気持ちに、職員さんは感謝の気持ちでいっぱいだったそうです。

さて入力ミスによっていつもの二〇〇倍の注文をしてしまったわけですが、ある人はこのような異常な数の注文についてはミスを防ぐシステムがあるべきだといいます。つまり注文を受ける方にも非があるのではないかというものです。

でも、入力した時にきちんと確認をすればよいのであり、まちがえる方が悪いという人もあります。

さてさてみなさんはどのようなふうに思いますか。